

関西大倉中学校 プレテスト 国語

(平成二十七年 十一月 十五日 実施)

(解答はすべて解答用紙に記入しなさい)

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

運動場でドッジボールで遊びたいと思つてるとき、ほとんどの友だちが「サッカーをして遊びたい」という意見に賛成していたら、自分の意見を言い出しにくいと感じることはありませんか。みんなの意見がまとまりつつあるときに、ようやく言えた自分の意見が、自分勝手なわがままとして受け取られてしまうことすらあります。

これは、「多数決」という決めかたに私たちが慣れ親しんでいるからです。「多数決」は、提案されたたくさんの意見の中から、賛成する仲間が最も多い意見に決める方法です。この方法は、公平な決めかたと受け取られがちですが、みんなとはちがう意見をもつ人から見ると、あまり納得できる決めかたとはいえません。

せいっぱいの勇気をふりしぼつて発言したのに、自分の意見が多く仲間から否定され、満足に聴いてもらえない。みんなとはちがう意見をもつ人は、納得できないまま、多数決で決まった意見に従わなくてはならないのです。

日本の国会でも、国会議員や内閣が提案した意見に賛成するのか反対するのかを、多数決によって決めていきます。テレビで選挙の特別番組を見ると、できるだけたくさんの国会議員が自分たちの政党から当選できるように、政党同士で競争していることがわかります。□ A 自分たちの政党に国会議員がたくさんいると、自分たちが国会で決めたいと思つていることを、多数決で決めやすくできるからです。

消費税率を変えたり、日本国憲法を改正するような、私たち国民にとつてとても重要な問題は、さまざまな人の意見をじっくり聴いて、みんなが時間をかけて話し合う必要があります。しかし、みんなが納得できるように話し合いをしないまま、選挙でたくさんの国会議員を当選させることのできた政党が中心となつて、多数決で決めてしまおうとする姿勢には、大きな疑問を感じます。

PA(プロジェクト・アドベンチャー)という、アメリカで生まれた体験学習法があります。そこでは、「自分やほかの人を軽くみたり、ばかにしたりしないで、おたがいを尊重する」という決まりことを必ずまもると約束します。この「軽視しない約束」を果たしながら、冒険に挑戦する体験を通して、仲間といっしょに楽しく学びを深めていくのです。

私たちは、一人ひとりが自分の意見をためらわずに話せる雰囲気と、多数決を急がず、一人ひとりが納得できるまで話し合う姿勢をくずさないことで、たがいに「軽視しない約束」をまもることができはすです。

そう言われても、話し合いだけでたくさんさんの意見をひとつにまとめることは、とてもむずかしいと感じることもあてしょう。しかし、最後に多数決で決めることになつたとしても、「軽視しない約束」さえ忘れなければ、仲間と決めたことをみんなで尊重し、仲間と決めたことは絶対にまもろうとみんなが思えるのではないでしようか。

公平な決めかたとは、**3** 決める決めかたなので。

たくさんの人たちが集まつて話し合い、意見をひとつにまとめるためには、まとめ役が必要になります。あなたのクラスでも、学級委員長を決めていますね。⁴学級委員長は、クラスの話し合いで、リーダーとして学級会をまとめる重要な役割をもつています。

学級会では、話し合いがすすむにつれて、声が大きく、強い口調で自分の意見を話すばかりが目立つようになることもあてます。そうなつてしまつたとき、自分の意見を聴いてほしいと思つていても、なかなか言い出せなくなつてしまつた、という経験がある人もたくさんいるでしよう。

話し合う内容についてクラスの全員が理解しているだろうか、一人ひとりが発言しやすい雰囲気になつていてるだろうか、発言したくてもうまく言い出せない人がいるのではないか、全員が積極的に話し合いに参加しているだろうか。このように学級委員長は、たくさんさんのことに気を配らなくてはなりません。

学級委員長といふことばのひびきには、何だか重みを感じられますね。小学校で学級委員長というリーダーとしての肩書（役割を表すことば）をもつようになると、責任を感じて、きつとみんなのためにがんばつて素敵なクラスをつくらうという気もちが強くなるのではないかと思ひます。

肩書とは、もともと仲間のために果たすべき役割と責任の大きさを表す目的で使われるものです。しかし、「長」といふ肩書がつくと、自分がえらくなつたようにかんちがいてしまつて大人をしばしば見かけるのは、とても残念で、はずかしいことです。

B、仲間をまとめるリーダーには、ふたつのタイプがあるとされています。ひとつは、アメリカ大統領のように自分の意見をしっかりと主張し、みんなを説得しながら強く導いていくタイプ。もうひとつは、自分の意見をおさえて、仲間の意見をよく聴きながら、みんなが納得できるように気配り、みんなの先頭に立って、決めたことを必ずまもる立場たちばに変わりはありません。

ちがった意見をもつ人たちがどうすれば歩み寄れるのか、その答えはひとつではありません。ひとつの意見に決めてしまわないで、たくさん意見の中から、それぞれの良いところだけを取り出して、意見をひとつにまとめることができるのです。

「私の意見に決めてほしい」と願う、一人ひとりの意見を、クラスみんなと分かち合いながら、みんなにとって、いちばん良いと考えられる意見にまとめていく。学級委員長には、その役割があるのです。

(出典 著者 菊田文夫 監修 日野原重明『みらいへの教科書 きみと・友だちと・よのなかと』学研による)

問一 A・Bに入る言葉として、最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア しかし イ そこで ウ なぜならば エ または オ ところで

問二 —— 線1「あまり納得できる決めかたとはいえませんが、「みんなとはちがう意見をもつ人」があまり納得できないのはなぜですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 自分の意見を言い出しにくいと思いつつも勇気を出したのに、そのことを評価してもらえないから。

イ 思いきって発言したにもかかわらず、自分が提案した意見ではなく、ほかの人の意見が採用されたから。

ウ みんなの意見が決まりつつあるときに意見を出しただけで、自分勝手なわがままとして受け取られるから。

エ 勇気を出して自分の意見を言ったのに、それが多くの仲間から否定され、満身に聴いてもらえないから。

オ 多くの仲間が賛成していてみんなの意見がまとまりつつあると、自分の意見を言い出しにくくなるから。

問三 —— 線2「大きな疑問を感じます」とありますが、筆者はどのような方法で決めるのが良いと考えていますか。四十字以内で説明しなさい。(句読点等記号も一字に数える。以下の問いも同じ。)

問四

3

に入る言葉として、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 大勢の中から選挙で選ばれた人が、さまざまな人たちの意見を聴いたうえで、いちばん良い意見を探して
イ 多数決で決めてしまおうと急がずに、おたがいを尊重し、すべての人が納得できるまで、話し合いを重ねて
ウ みんなにとって重要な問題だと思ったときは、いろいろな人の意見を尊重しながら、一つの意見にまとめて
エ 賛成する仲間が最も多い意見を調べてそれを採用し、その意見に決めた理由をみんなに納得してもらって
オ 多くの人がじっくり考えて自分の意見を出し、その中から全員が最もすぐれていると思うものを見きわめて
問五 — 線4「学級委員長」が気を配らなければならないこととして適当でないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア クラスのみんなが積極的に話し合いに加わっているかということ。
- イ 話し合いの場で、意見をうまく言い出せない人はいないかということ。
- ウ 一人ひとりが意見を言いやすい雰囲気になっているかということ。
- エ みんなが話し合いに参加し、全員が一度は発言しているかということ。
- オ 話し合う内容を、クラスみんなが理解しているかということ。

問六

— 線5「肩書」とありますが、本来、肩書はどのような目的でつけられますか。二十五字で抜き出し、最初と最後の五字を答えなさい。

問七

話し合いの場に出されたさまざまな意見をどのようにまとめることが、学級委員長の役割だと筆者は考えていますか。四十五字以内で説明しなさい。

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

地区大会当日は、よく晴れて暑い日だった。空が、ボノ中のジャージみたいな青い色をしていた。

駅から会場まで歩く途中、みさとは緊張のあまりぎくしゃくとおかしな歩きかたをしていた。地面がふわふわ揺れている気がする。後ろから珠子が、「みさと先輩、実績、実績」とブレッシャーをかけてくるので、そのたび葉月に叱られていた。

会場に到着すると松葉づえをついた須貝先生が待っていた。

「すごいね、わくわくするね」

なにも知らないようすで目を輝かせあたりを見まわしている。部員たちはちらりと気まずげに目を見交わした。ごほうびのおやつの袋が空っぽだったと知ったとき、犬のハルはどんな顔をするだろう。しょんぼりとしっぽを垂れる姿が **A** に浮かんだ。

ぽんと肩かたに手を置かれた。葉月だった。みさとも笑みを浮かべうなずきかえす。行こう、と歩きだしたとき、ふと隣となりでその足が止まった。葉月の視線の先に、女子生徒ばかりの一団がいた。見なれぬ制服は雑誌から抜けだしてきたような洒落たデザインをしている。驚いたようにこちらに目を向け、ひとりがそつとなにかささやいているのが見えた。胸がどきりとする。

そのときだった。葉月がまっすくにそちらへ向きなおり、その場で深く頭を下げた。向こうの生徒たちが戸惑ったような顔をしている。とっさにみさとも頭を下げていた。ふたり並んで長々と頭を下げたあと、くるりと背を向けその場をあとにする。

「なんであんたまでやってんのよ」

「いや、つい」

なんとなく、と言つと、葉月は、犬か、と **B** で笑ったあと、小さく、ありがとと言った。

一時間ほどたったところ、みさとは客席に座る部員たちと別れ、舞台の袖で出番を待っていた。作品の発表はアナウンス、朗読、ラジオ、テレビの順で、各部門ごとに行われる。

カーテンの陰から、まぶしく照らされたステージが見える。他校の生徒が演壇で自分の作品を読んでいる。予選を通過してき

た出場者たちは、だれもみな自分よりうまく考えた。暗がりにはまぎれてそつと客席をのぞくと、中央あたりに A B C の面々が陣取っているのが見えた。テレビ、ラジオ部門は、提出した作品を会場で流すだけなので自分たちが壇上に上がることはない。須貝先生の落としたプログラムを新納が拾ってやっている。古場と珠子は自前の録音機材を持ちこんで大会の内容を収録するのに余念がないようだ。

葉月は、と思ったとき、演壇のマイクを通して、「三苑女子学園中学校」という声が聞こえてきた。ステージに目をやると、さっきの制服に身を包んだ女子生徒が作品を読みあげていた。これまでの出場者より飛びぬけてうまい。やっぱり違うね、と他校の女子がささやき交わすのを耳にして、葉月のほづがうまい、と心のなかで思った。

いよいよみさとの順が来る。明るい壇上に立ったとき、その雰囲気にもまれそうになった。大勢の視線がいつせいにみさとをとらえに来る。瞬時に足がすくんだ。

失敗したら、どうしよう。いつかのように、ぶざまに舌をもつらせでもしたら――。

憐れみを含んだしのび笑いが聞こえた気がした。そのときだった。

客席に葉月を見つけた。まっすぐにみさとを見ていた。

(――望みはなに。上手に読む自分?)

(だったら、ひとりでカラオケにでも行ってればいい)

まさか。

みさとはお腹に力を入れ、まっすぐ顔を上げた。背すじを伸ばし、深く息を吸う。

ステージ入りするとき、葉月がくれたアドバイスは、たったひとつ。

だれかに話しかけるように読んで。自分の言葉を伝えるために。

――曙第二中学校、本庄みさと

しんとした会場内にみさとの声が響く。

学校へつづく長い坂道を上ったところに、一本の大きな木があります。メタセコイアの木です

ひと呼吸置くと同時に、肩に手がのるのを感じた。客席の葉月が真剣な目で見ている。

校舎と並ぶくらい背が高く、空を指す矢印のように美しい円錐形をしています。和名は曙杉といい、この学校の名前、「曙第二中学校」にちなんで植えられたものだと言われています。正門側から見て東の方向にあるため、毎朝、登校時にはその木の後ろに朝陽を見ることが出来ます。とても身近な木なのにその歴史は驚くほど古く、何百万年も前から存在しているため、「生きている化石」とも呼ばれています。初夏には枝いっぱい葉を繁らせ、風が吹くたびざわざわと快い音をたてます

録音しなおすに当たって、原稿も少し書きかえてあった。葉月はわずかに眉を上げ、「好きにすれば？」と

「根上がり」という言葉を聞いたことがありますか。生長した街路樹の根が地表に盛りあがり、舗装された道路を持ちあげてしまうことを言います。樹高が三十メートルにもなるメタセコイアは、その幹を支えるためとくに大きく根を張るつとします

目の前に情景を思いうかべながら読む。

しゃんと背すじを伸ばすその姿は、だれかに似ていると思った。

中学生は、ずっと太陽のほう向いてるってことなんじゃない、とその人物は言った。

高く、高く。この木はいつもその枝先を空にさし伸べているように見えます

夢中で読むうちはつきりと意識しはじめ。体の内から発した呼気が、のどを震わせ、声となって、空気を、鼓膜を、震わせ
ていく。

春先に嵐が来たとき、翌朝は折れた枝葉があたり一面に散らばっていました。幹にくらべ、その枝先は意外に細いのです。けれどももしかしたらそれは、強い風に耐えるその木なりの知恵なのかもしれません。——それでもまっすぐに天を指し、驚いたことに今もまだ、生長の途中なのです

先は長い、と新納は言った。枝葉を落として黙りこんだ木も、緑が芽吹いて風が吹けば、また葉擦れの音をさせはじめだろ
つ。

——みなさんも、そばを通ったら梢を見あげてみませんか。丸まっていた背中がぴんと伸びて、その向こうにはきつと、青い空が見えるはずですよ——

最後の一文とともに作品が終わり、静かに拍手が起きる。

ほっとして会場を見渡す。たくさんの顔が並んでいた。女子も男子も、髪の長い者も短い者も、眼鏡をかけた者もそうでない者も、それぞれの制服に身を包んださまざまな学校の生徒たち。それがみな、異なる考えを持つ異なる存在なのだと思つたら、気が遠くなる。でも。

ここにいるのは、みな、なにかを伝えようと努力している仲間たちだ。

ステージを去るとき、客席で須貝先生がティッシュで目をぬぐっているのが見えた。大きく涙をかんでは隣席で録音している他校の生徒ににらまれている。珠子は機材を押さえたまま、ぱびぱびと変な拍手をしていた。

そのとき、葉月と目が合った。葉月は静かに右手を上げると、みさとのほうへ手のひらを向けた。はっとしてみさとも手を上げる。軽く空気を押すようにそつと前に出す。

ぱん、と音が鳴った気がした。

——ああ、伝わった。

周りからは客席の友達に手を振つただけに見えたかもしれない。

けれど、みさとには、聞こえた。

いつか夢で見たように。

みさとは深く安堵の息を吐き、ステージの暗がりへと歩いていった。

(出典 市川朔久子『ABC! 曙第二中学校放送部』講談社による)

問一 A～Cに入る言葉として、最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア 肩 イ 鼻 ウ 眉 エ 目 オ 口

問二 ——— 線1「葉月に叱られていた」とありますが、なぜですか。三十五字以内で説明しなさい。(句読点等記号も一字に数える。以下の問いも同じ。)

問三 ——— 線2「いよいよみさとの順が来る」とありますが、これから作品を発表するみさとに、葉月はどのようなことをア
ドバイスしましたか。三十字以内で説明しなさい。

問四 ——— 線3「瞬時に足がすくんだ」とありますが、

(1) このときのみさとの気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 観客が自分を見て笑っているように思え、壇上からおりたくなっている。

イ 他の人が自分より上手に思えて落ちこみ、すっかり自信を失いかけている。

ウ 張りつめた会場の雰囲気におどろき、そこからにげだしたくなっている。

エ 大勢の人に注目されてあがつてしまい、発表内容を忘れてあせっている。

オ 多くの観客に見られてとても緊張し、失敗するかもしれないと恐れている。

(2) みさとが、このときの気持ちをふりきったと分かる行動がえがかれている一文があります。その最初の五字を抜き出しなさい。

問五 ——— 線4「肩に手がのるのを感じた」とありますが、このときのみさとの気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア みさとに真剣なまなざしを向ける葉月の様子におどろき、入賞しなければという圧力を感じている。

イ 観客席にいる人たちもみさとと同じ目標を持つ仲間だと気づき、観客たちとの一体感を感じている。

ウ 葉月の存在を身近に感じるとともに、葉月がみさとを見守り応援おうえんしてくれているように感じている。

エ 実績を残したいという部員の希望が頭をよぎり、放送部を代表することをとても重荷に感じている。

オ 放送部員たちがみさとのおそばにいてくれるような気がして、緊張がやわらいでいくのを感じている。

問六

——線5「ステージの暗がりへと歩いていった」とありますが、このときのみさとの気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 大勢の人から拍手される快感や、最後まで読み終えられたほこらしさで、興奮した気持ちになっている。
- イ 出番が終わった気楽さや、葉月に自分を受けいれてもらえたうれしさで、うかれた気持ちになっている。
- ウ 部員に努力を認めてもらえたうれしさや、満足のいく発表ができた感動で、泣きたい気持ちになっている。
- エ 無事に発表し終えた安心感や、葉月や観客たちと通じ合えた喜びで、満ち足りた気持ちになっている。
- オ 発表前に葉月とした約束を守れた達成感や、大役を果たせた解放感で、一息つきたい気持ちになっている。

三 次の各問いに答えなさい。

問一 次の—— 線部のカタカナを漢字に直しなさい。

子どもにドウワを読んでやる。

ヨウイに解決できる。

正直にハクジヨウする。

会場にアラワれた。

薬を飲むと頭痛がナオる。

問二 次の—— 線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

勢いよく落下していく。

作業の効率を上げる。

手品の名人がやってきた。

もうすぐ潮が満ちるころだ。

キツネが人間に化ける。

問三 次の—— 線部の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

いちもくざんに逃げる。

ア よく考えずに
イ みんなで一斉に
ウ よそ見もせずに
エ 苦しそうに
オ 立ち止まらずに

きれいな曲で心がなごむ。

- ア おだやかな気持ちになる
- イ さみしい気持ちになる
- ウ 陽気な気持ちになる
- エ 悲しい気持ちになる
- オ さわやかな気持ちになる

そんなことをするとは気が知れない。

- ア 心配である
- イ 不安である
- ウ 賛成できない
- エ 理解ができない
- オ とても驚く

問四 次の各文には誤った文字が使われています。その文字を抜き出し、正しい漢字に直しなさい。

夏の天向は変わりやすく、山沿いでは急に大雨が降り出すことが多い。
生徒会役員の発案で、食堂のメニューを増やすための暑名を集めている。